

災害の概況と推移

火災 - Fire -



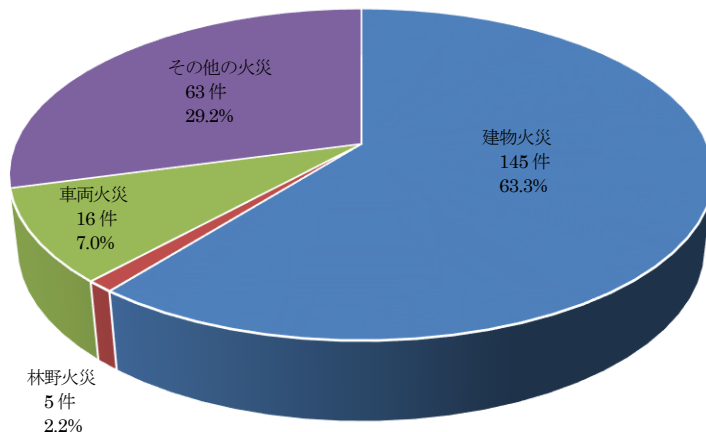
1 火災発生内訳（令和2年中）

令和2年中に広島市消防局管内で発生した火災は229件で、これにより5人の死者と51人の負傷者が発生した。また、損害額は合計で2億7,003万円、建物の焼損面積は3,727㎡であった。

火災種別で見ると、「建物火災」が145件で約6割を占めており、前年から23件減少している。また、「その他の火災」は63件で、前年から18件減少している。

区分	年別	令和2年	令和元年	増減
火災件数（件）		229	277	△48
建物火災		145 (63.3%)	168 (60.6%)	△23
林野火災		5 (2.2%)	3 (1.1%)	2
車両火災		16 (7.0%)	25 (9.0%)	△9
船舶火災		0 (0.0%)	0 (0.0%)	0
その他の火災		63 (29.2%)	81 (29.2%)	△18
損害額（千円）		270,035	361,434	△91,399
建物焼損面積（㎡）		3,727	3,690	37
林野焼損面積（a）		11	56	△45
死者（人）		5	9	△4
負傷者（人）		51	40	11

【火災発生原因の内訳】



※ 各内訳の割合数値は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合がある。

2 過去10年間の火災件数等の推移

この10年間の火災件数の推移をみると、479件であった平成23年以降、おおむね減少傾向となっている。火災による損害額及び建物焼損面積についても、火災件数と同様におおむね減少傾向となっている。

年別	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
火災件数	479	395	420	378	305	299	316	260	277	229
損害額(10万円)	5,163	4,940	7,898	6,359	4,488	4,905	4,742	5,396	3,614	2,700
建物焼損面積(m ²)	5,804	3,953	7,311	5,700	5,188	3,358	4,082	4,068	3,690	3,727
死者(人)	11	12	9	30	20	5	8	10	9	5
負傷者(人)	55	60	50	65	64	54	60	49	40	51

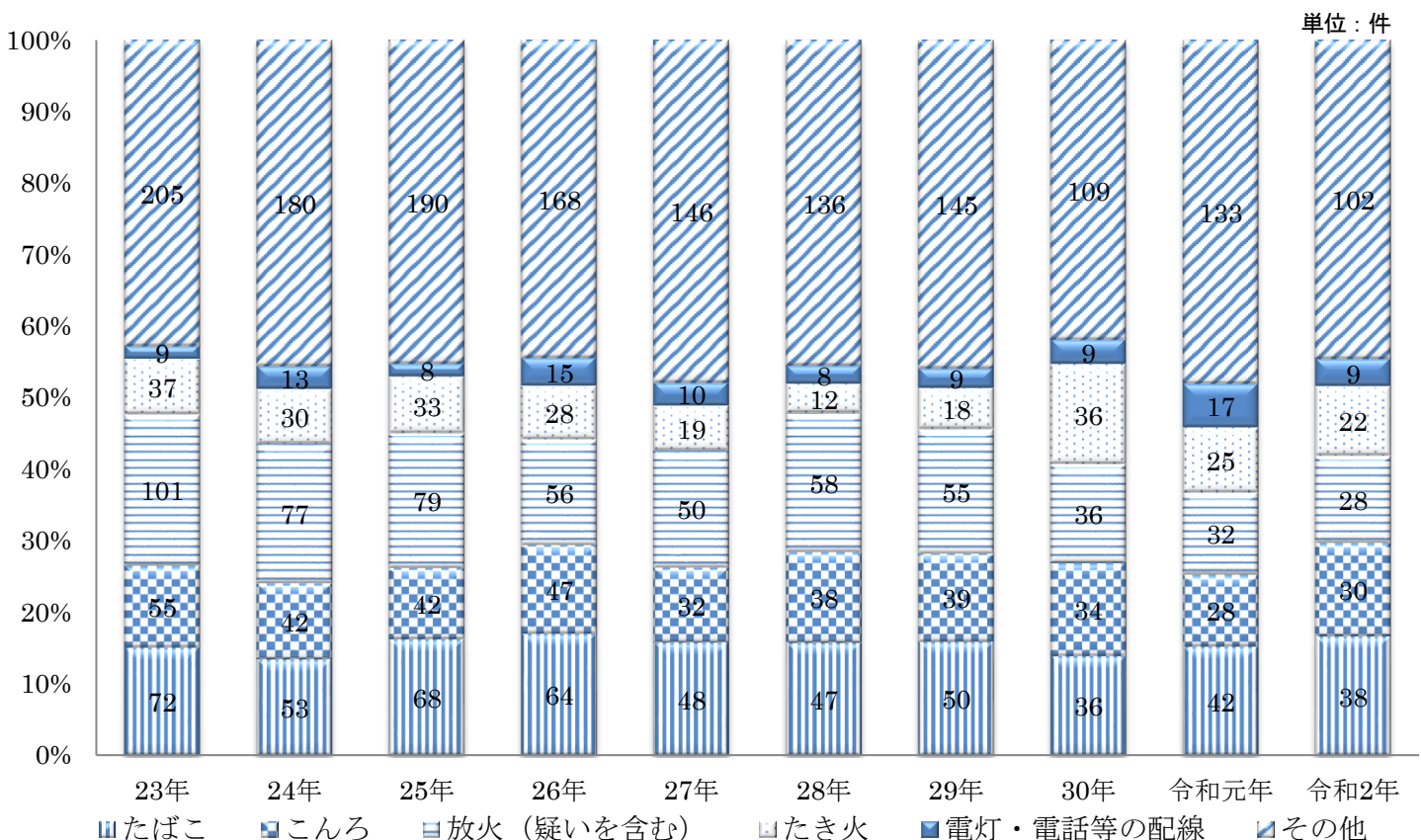
3 出火原因別火災件数(令和2年中)

令和2年中の火災を出火原因別にみると、「たばこ」が38件(16.6%)で最も多く、次いで「こんろ」が30件(13.1%)、「放火(疑いを含む)」が28件(12.2%)となっている。

区分	総数	たばこ	こんろ	放火(疑いを含む)	たき火	電灯・電話等の配線の配線	その他
件数	229	38	30	28	22	9	102
構成比	100.0%	16.6%	13.1%	12.2%	9.6%	3.9%	44.5%

4 過去10年間の火災原因の構成比

出火原因の推移をみると、「放火(疑いを含む)」による火災は、平成26年を除き、昭和61年から平成30年まで出火原因の第1位となっていたが、令和元年からは「たばこ」による火災が第1位となり、令和2年は「放火(疑いを含む)」による火災は第3位となった。



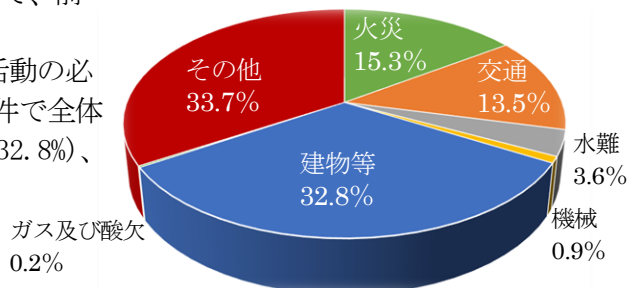
救助 - Rescue -



1 救助件数内訳（令和2年中）

令和2年中の広島市消防局管内の救助件数は、872件で、前年の904件と比較して32件の減少となった。

件数の内訳は、屋外での転落・転倒等の事故や救出活動の必要が無かった出動などが該当する「その他事故」が294件で全体の33.7%を占め、続いて「建物等による事故」が286件(32.8%)、「火災」が133件(15.3%)となっている。

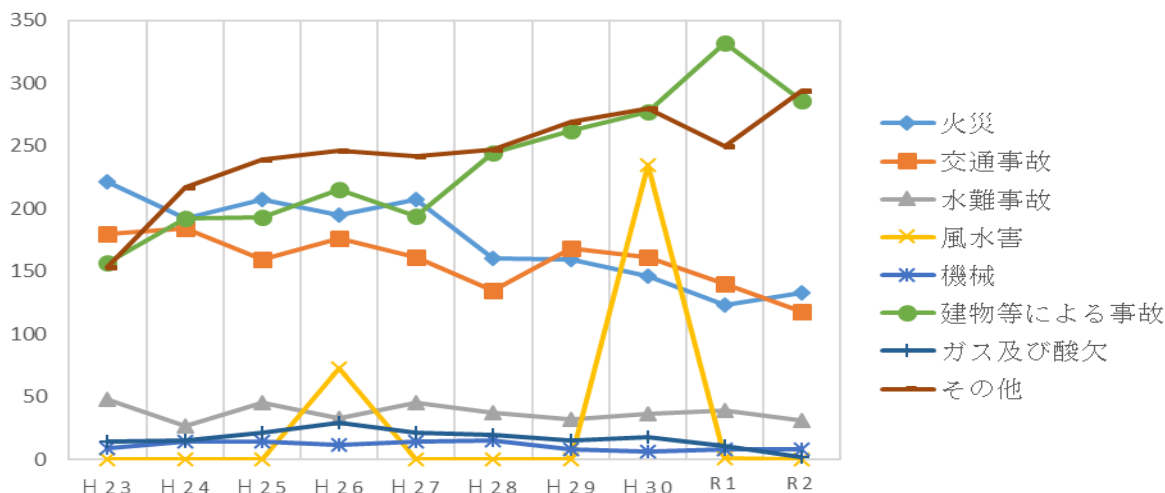


2 過去10年間の救助件数の推移

過去10年間の救助件数の推移をみると、平成23年の782件に対し約12%の増加となっている。

年別	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	
救助件数	782 (100)	841 (108)	878 (112)	979 (125)	884 (113)	858 (110)	913 (117)	1,159 (148)	904 (116)	872 (112)	
内 訳	火災	221 (100)	192 (87)	207 (94)	195 (88)	207 (94)	160 (72)	159 (72)	146 (66)	123 (56)	133 (60)
	交通事故	180 (100)	184 (102)	159 (88)	176 (98)	161 (89)	135 (75)	168 (93)	161 (89)	140 (78)	118 (66)
	水難事故	48 (100)	27 (56)	45 (94)	33 (69)	45 (94)	37 (77)	32 (67)	36 (75)	39 (81)	31 (65)
	風水害等 自然災害	0 (100)	0 (100)	0 (100)	73 (-)	0 (100)	0 (100)	0 (100)	235 (-)	1 (-)	0 (100)
	機械に よる事故	9 (100)	14 (156)	14 (156)	12 (133)	14 (156)	15 (167)	8 (89)	6 (67)	8 (89)	8 (89)
	建物等に よる事故	157 (100)	192 (122)	193 (123)	215 (137)	194 (124)	244 (155)	262 (167)	277 (176)	332 (211)	286 (182)
	ガス及び 酸欠事故	14 (100)	15 (107)	21 (150)	29 (207)	21 (150)	20 (143)	15 (107)	18 (129)	11 (79)	2 (14)
	その他の 事故	153 (100)	217 (142)	239 (156)	246 (161)	242 (158)	247 (161)	269 (176)	280 (183)	250 (163)	294 (192)

【備考】 ()内は、平成23年を指数100として表した数値である。



救急 - Ambulance -



1 令和2年中の救急出動件数の推移

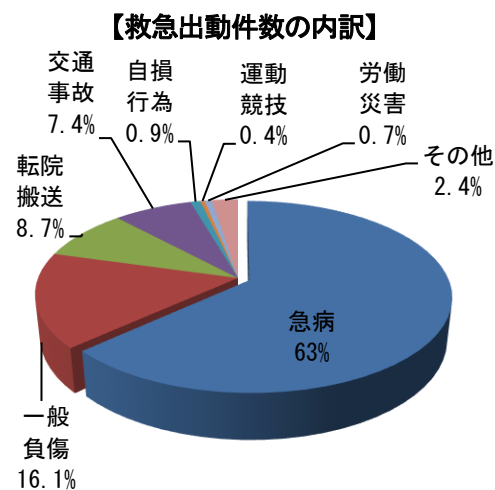
令和2年中の出動件数は、55,383件で、前年と比較すると5,524件(9.1%)減少し、搬送人員は47,118人で4,177人(8.1%)の減少であった。これを一日に平均すると約151件出動し、約129人搬送したこととなり、約10分に1件の割合で救急出動がされたこととなる。

事故種別でみると、「急病」が35,048件で最も多く、全体の約6割を占めており、前年と比較して3,988件の減少となった。次いで多いのは「一般負傷」で8,929件、「交通事故」は4,113件となっている。前年と比較して「一般負傷」は230件の減少、「交通事故」は573件の減少となっている。

平成12年4月1日からはヘリコプターによる救急搬送業務を開始しており、令和2年中は44件救急出動し、21人の搬送を行っている。



区分	年別	R2年	R元年	増減	増減率
出動件数		55,383	60,907	△5,524	△9.1%
急病		35,048	39,036	△3,988	△10.2%
一般負傷		8,929	9,159	△230	△2.5%
転院搬送		4,813	5,269	△456	△8.7%
交通事故		4,113	4,686	△573	△12.2%
自損行為		523	460	63	13.7%
運動競技		214	322	△108	△33.5%
労働災害		387	425	△38	△8.9%
その他		1,356	1,550	△194	△12.5%
搬送人員(人)		47,118	51,295	△4,177	△8.1%



※ 各内訳の割合数値は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合がある。

2 過去の10年間の救急件数の推移

区分	年別	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2
出動件数		52,616 (100)	53,500 (102)	55,448 (105)	56,045 (107)	57,746 (110)	57,978 (110)	59,752 (114)	61,865 (118)	60,907 (116)	55,383 (105)
急病		30,928 (100)	31,545 (102)	32,856 (106)	33,365 (108)	35,215 (114)	35,733 (116)	36,760 (119)	38,693 (125)	39,036 (126)	35,048 (113)
一般負傷		7,346 (100)	7,655 (104)	7,972 (109)	8,257 (112)	8,257 (112)	8,458 (115)	9,027 (123)	9,166 (125)	9,159 (125)	8,929 (122)
交通事故		6,200 (100)	6,041 (97)	6,202 (100)	5,842 (94)	5,653 (91)	5,420 (87)	5,301 (86)	5,104 (82)	4,686 (76)	4,113 (66)

【備考】 ()内は平成23年を指数100として表した数値である。